

# Economic Indicators

発表日: 2024年3月21日(木)

## 貿易統計(2024年2月)

～貿易収支(季節調整値)はふたたび赤字転化。実質輸出も弱い～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
		原数値	季調値	金額		前年比	アメリカ	EU	中国	前年比	アメリカ	EU	中国
				輸出金額	輸入金額		前年比	前年比	前年比		前年比	前年比	前年比
23年	1月	▲ 35,280	▲ 18,121	3.5	17.5	▲ 8.3	▲ 1.5	▲ 6.6	▲ 26.2	▲ 2.5	▲ 0.9	▲ 8.3	▲ 1.2
	2月	▲ 9,289	▲ 11,910	6.5	8.3	▲ 6.3	2.3	0.6	▲ 22.5	▲ 8.6	▲ 8.6	▲ 5.1	▲ 11.7
	3月	▲ 7,509	▲ 13,323	4.3	7.0	▲ 7.5	▲ 5.7	▲ 14.6	▲ 19.7	▲ 3.5	0.9	▲ 5.7	1.8
	4月	▲ 4,298	▲ 10,407	2.7	▲ 2.7	▲ 4.4	▲ 0.4	1.4	▲ 9.3	▲ 1.5	▲ 5.2	▲ 3.9	10.1
	5月	▲ 13,823	▲ 8,379	0.6	▲ 10.2	▲ 3.6	2.1	4.5	▲ 8.8	▲ 6.4	▲ 6.6	▲ 6.3	▲ 10.5
	6月	365	▲ 5,623	1.5	▲ 13.1	▲ 4.0	3.9	1.3	▲ 14.1	▲ 7.4	▲ 14.0	4.9	▲ 13.9
	7月	▲ 613	▲ 5,412	▲ 0.3	▲ 14.1	▲ 2.8	9.4	1.0	▲ 15.8	▲ 6.1	▲ 12.0	15.6	▲ 16.1
	8月	▲ 9,401	▲ 5,229	▲ 0.8	▲ 17.7	▲ 5.3	3.8	1.1	▲ 15.2	▲ 9.1	▲ 9.5	5.1	▲ 13.8
	9月	606	▲ 4,111	4.3	▲ 16.5	0.2	8.6	▲ 0.6	▲ 12.5	▲ 3.9	▲ 12.9	▲ 6.2	▲ 1.6
	10月	▲ 6,682	▲ 3,799	1.6	▲ 12.4	▲ 3.4	8.8	0.4	▲ 9.4	▲ 3.3	0.1	1.0	▲ 2.3
	11月	▲ 7,883	▲ 3,387	▲ 0.2	▲ 11.8	▲ 5.6	3.4	▲ 11.8	▲ 9.9	▲ 3.4	2.6	0.4	▲ 3.3
	12月	589	▲ 4,579	9.7	▲ 6.8	2.9	16.9	2.2	2.7	▲ 3.1	▲ 5.5	▲ 13.8	▲ 0.6
24年	1月	▲ 17,603	126	11.9	▲ 9.8	2.3	7.1	▲ 0.2	20.4	▲ 8.5	▲ 3.9	▲ 22.1	▲ 9.2
	2月	▲ 3,794	▲ 4,516	7.8	0.5	▲ 1.5	10.9	3.5	▲ 7.0	1.5	6.6	▲ 3.2	12.6

(出所) 財務省「貿易統計」、前年比(%)

### ○貿易収支(季節調整値)はふたたび赤字転化

財務省より発表された2月の貿易統計では、輸出金額が前年比+7.8%(事前予想: 同+5.1%)、輸入金額が同+0.5%(事前予想: 同+2.2%)、貿易収支は▲3,794億円の赤字(事前予想: ▲8,182億円の赤字)となった。季節調整値でみると、輸出金額が前月比▲1.5%(1月: 同▲3.6%)、輸入金額が同+3.8%(1月: 同▲10.5%)となり、貿易収支は▲4,516億円の赤字(1月: +126億円の黒字)となった。

1月は中華圏の春節のタイミングのズレ(昨年: 1月下旬、今年: 2月中旬)が輸出の押し上げ要因となっていたが、2月は逆に輸出を押し下げる方向に働くこととなる。これに加えて、1月に落ち込んでいた輸入が2月は反動増となったことで、2月はふたたび貿易赤字(季節調整値)へと転化した。先行きについても、輸出の伸び悩む状況が続く中で、これまで赤字縮小の主な要因だった輸入価格の下落も落ち着くことから、貿易赤字の縮小傾向も鈍化するだろう。

### ○地域別実質輸出の動向

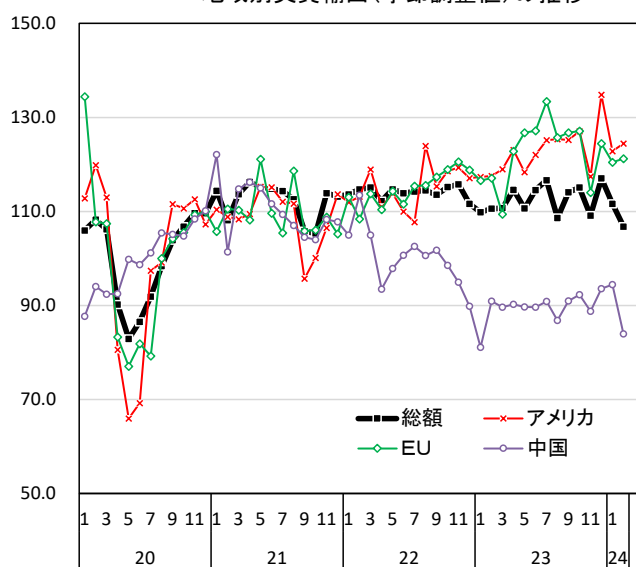
物価変動の影響を除いた実質輸出は前月比▲4.4%(1月: 同▲4.6%)となった(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)。地域別にみると、米国向けが前月比+1.3%(1月: 同▲8.9%)、欧州向けが同+0.6%(1月: 同▲3.2%)、中国向けが同▲11.1%(1月: 同+0.9%)となった。

中国の春節要因が2月は押し下げに働くことから、中国向けの減少は事前からの予想通りだった。一方で、米国向け、欧州向けでは、輸出のウェイトが大きい自動車含む輸送用機器の減少が続いたことで、前月の落ち込みから小幅の戻りに留まり、弱い動きが続いた。輸送用機器は、年明け以降の一

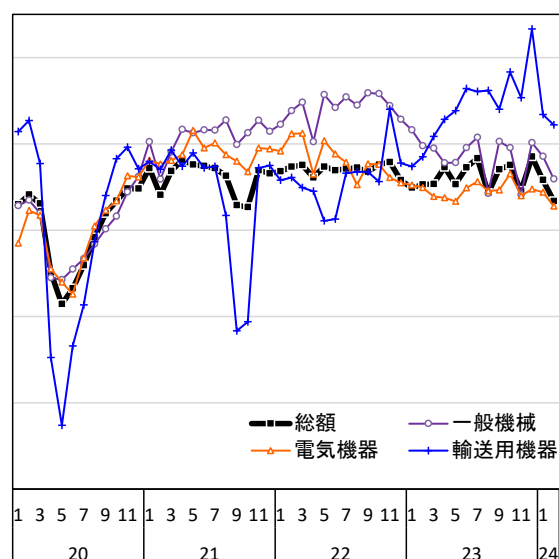
部自動車メーカーの生産停止の影響を受けて、1月に同▲13.5%（対世界）となった後、2月も▲1.9%（対世界）と減少が続いた。

この結果、1-2月平均の実質輸出は23年10-12月期対比で▲4.0%pt 下回る。3月には春節要因の剥落によって中国向けの反動増が予想されることに加えて、自動車工場の一部稼働再開によって自動車減産の影響も緩和傾向に向かうことから、一旦持ち直しとなるだろう。もっとも、自動車生産能力の正常化には時間を要するものとみられるほか、世界経済の減速によって財輸出は回復感の欠ける動きが続くと見込まれる。1-2月の落ち込みを取り戻すことは難しく、1-3月期の輸出は前期比マイナスの可能性が高いだろう。

(2020年=100) 地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(2020年=100) 財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。